

# ザ・ふれあい!

山梨県北杜市白洲町  
 有望月農業センター  
 代表取締役  
 望月 茂喜さん

▼山梨放送の「ともちゃん家(ち)の5時」で新米収穫作業の取材を受けた。エプロン姿は奥さんの良子さん



▼きめ細かい対応でセンターを訪れるお客さんが絶えない



▼手作りの倉庫には、9台の大型乾燥機が並ぶ。受託を含む50ha分を処理



▲低温貯蔵庫4台の中には、甘味とモチモチした食感が美味な「田舎 白州米」が出荷を待っている



▲袋のデザインも望月さんが手掛けた

第一号として  
 起業して欲しい」と、強い要望を受けるまでになり、平成6年には補助金制度を利用しない行政から自立した経営を理念として、(有)望月農業センターを立ち上げました。

## 納得しない農業はしない

同センターが受託している圃場の区画は30aから5aまで100筆近くあり、あちこちに点在しています。集約するのは大変ですが、20代の若者を含む社員3名を中心としながら、農繁期には作業補助として延べ20〜30名雇用。「適材適所」の考えで年齢を加味し仕事内容にあった人をそれぞれ割り当て、効率的な作業を展開しています。「信頼して田んぼを預けてくれるわけですから、みんな同じように仕上げないといけないのです」と高いプロ意識を持つ望月さん。「田植え時、植付け深さが均一にならない、あるいは植付け姿勢が真っ直ぐ

左から(株)山梨クボタの堀内さん、(有)望月農業センターの水本博文さん、望月社長、青木清さん、保坂聡彦さん、(株)山梨クボタの山本社長、設立時機械導入面でセンターをバックアップした小林常務、(株)クボタの宮越部長



# 県内一のブランド米 『田舎 白州米』を召し上がれ 豊富な水資源を有効利用し、稲の生育管理を行う

でない等、私が判断して納得できない作業をしていると、いくらお金がかかっても徹底的にやり直しをさせる」と自身が求める基礎技術を徹底に教示。「ここへ出しても恥ずかしくない、いい仕事をする」オペレータを育成することで、高品質な米づくりを求めるお客さまの要望に応えています。

## 水をコントロールする稲の生育管理を行う

「水がいいから、美味しいお米ができるのです」と望月さん。甲斐駒ヶ岳の花崗岩層で磨かれ、カルシウム、マグネシウム等の天然のミネラルがバランスよく溶け込んだ尾白川の水が圃場を潤します。稲の生育期間には毎日、水温が高くなる夜間、2時間かけて新しい水を全圃場に灌水し、朝5時には止水しています。水質の良い水をたっぷり吸収させることで抵抗力を高め、病気に強い稲を生育する狙いがあります。また、分けつ期には適切な水量に調整する等、状況に応じた巧みな水管理を行うことで、稲の生育を制御しています。加えて、力を注いでいるのが「必要以外に手を入れない」という方針のもと行う、減農薬・減化学肥料栽培です。土づくりにおいては砂質漏水田対策に、土壌改良剤としてケイカルを施用。また、耕畜連携に取り組み、もみガラと牛糞を混ぜて1年間発酵させた完熟堆肥を全圃場に100t散布しています。さらに、除草効果の高い米ぬかを10aの圃場に対し、100キロを手散布。「草が生えると徹底的に抜き、畔草刈りも3回はやり、私のこだわりですね。今年は軽トラックにして5台分の草取りをしました。」



清流の恵みでおいしい米を育てる圃場が広がる



▲コンクールの賞状

「今後は、今の営農形態を軸に人材も面積も増やして、規模を拡大していきたいですね」と人材確保面において、月給、ボーナスも安定的に支給し、社員が意欲を持って働ける給与制度等を整備し、受け入れ態勢は万全。会社の更なる発展、食味日本一実現を目標に、ますます意欲的に米づくりに取り組む望月さんです。



▲「GMトラクタのモノロー、オート装置は最高に良いですね。代かき時一回でほとんど均平になります」と仕上がりに満足な望月さん

## 水稲農業法人として県を代表する会社に

代表取締役を務める望月さんは、元はJAで農業機械の整備を行っていた、兼業農家。水稲30a、農業機械の整備、作業受託の3つを経営の柱として、取り組んだことがきっかけで、JAを退職。本格的に事業に乗り出しました。

同地区は、県を代表する米作地帯ですが、四方を山岳に囲まれた中山間地という背景から、農業法人が根付かない土地柄でした。しかし、規模拡大にも丁寧な仕事ぶりで近隣の農家から厚い信頼を得、基盤を固めていた望月さん。取り組みを始めて早くも2年目には役場から「評判が高いので是非、水稲農業法人

山梨県の北西部に位置する白州町には、南西に日本百名山、甲斐駒ヶ岳から連なる南アルプスを源流とし、日本名水百選に選出された尾白川が集落全体を流れています。近辺には、大手飲料水メーカーのミネラルウォーターボトリング工場が稼働しており、高い水質を誇る場所として全国に名を馳せています。同地で排水性に優れた砂壤土と、標高650mと高標高地の気候を活かしながら、良質で豊富な水資源を有効利用し、良食味米づくりに情熱を傾けているのが(有)望月農業センターです。借地や委託を含む水稲20haを中心に、長いも1.2ha、ごぼう80a、そば10ha、小麦50aを栽培しながら、各種作業受託を行う等、幅広い事業を展開しています。

## 夢は米・食味、日本一!

「ホームページ上での宣伝を勧められるんですが、それだとお米が足りなくなってしまうんです」と嬉しい悲鳴を上げる望月さん。高い評価を得ている「田舎 白州米」を5年前にブランド米として、商標登録しました。口コミで販路が広がっていき契約栽培を含む、ほぼ全量が直販です。「昨年には、米・食味鑑定士協会主催のお米日本一コンテストに出品。初挑戦にして食味値91で審査員特別賞を受賞。ますます高付加価値米として人気に拍車がかかっています。「次に狙うのは食味日本一なんです」と意欲を燃やし目下、各圃場の土壌調査を行ってデータを集積。独自の肥料設計を立て、食味値の向上を図っています。